

<研究名称>

緊急入院となった高齢者の ADL 低下の現状と関連要因の検討
～消化器内科疾患患者の移動動作に焦点を当てて～

<実施責任者及び実施担当者>

実施責任者 所 属 看護部 (HCU・救急外来)
職 名 集中ケア認定看護師・看護師長
氏 名 大塚 操

実施担当者 所 属 看護部 (HCU・救急外来)
職 名 集中ケア認定看護師・看護師長
氏 名 大塚 操

<研究期間>

2021 年 4 月～9 月

<診療・研究の目的>

消化器内科疾患により緊急入院となった高齢者の ADL の移動動作に焦点を当て、入院後に移動動作が低下する要因を明らかにする。

<実施内容 (方法) >

1. 研究デザイン

後ろ向きコホート研究

2. 対象・期間

調査期間：2021 年 4 月～

対象：2019 年度に当院 HCU に入院となった 1911 名のうち、65 歳以上の消化器内科疾患患者 484 名とし、そのうち、除外基準 1) を満たした患者を除いた 344 名を対象とした。

1) 除外基準：①死亡退院となった患者

②入院時の介護認定で要介護 5 と認定されている患者

③入院前と退院時の移動動作の記録がない患者

*消化器疾患患者を対象とした理由

ADLに直接影響を与える脳神経系の疾患や、心肺機能の低下により運動を制限される呼吸・循環器系の疾患を除き、ADLの低下に影響を与える入院生活の要因を明らかにするためである。

*移動動作の状態は、看護記録、リハビリテーションの記録から「自立」「杖歩行」「車椅子」「全介助」として抽出した。理由は、当院で使用しているADL評価の指標のうち、Barthel Index (BI)は、理学療法士の介入時と退院時に測定しているのみであること、DPCの移動の記録は「不明」という記載が多いため、比較が困難と判断したためである。

自立：杖や介助の手などの支えなく、一人で歩くことができている状態。

杖歩行：杖や歩行器、腰支えなど介助の手等の支えはあるが、自分自身で歩くことができる状態。

車椅子：移乗の自立に関わらず、車椅子を使用して移動している状態。

全介助：自分自身で移動することができず、ベッドやストレッチャーで移動している状態。

3. データの収集方法：

電子カルテから患者のデータを収集する。

ADLのうち移動動作に着目し、入院前後の移動状態に変化がない群（低下なし群）と低下した群（低下あり群）として情報を収集した。

*移動に着目した理由は、移動動作の低下がないことにより、立位・排泄など他のADLにも影響すると考えたからである。

4. データの分析方法：

調査項目：性別、年齢、入院経路、入院期間、入院中の外科手術の有無、安静度・離床までの期間、理学療法士の介入の有無、尿道カテーテル挿入の有無と期間、絶食の有無と期間

分析方法：低下なし群と低下あり群における調査項目の有意差を検討した。t検定と χ^2 検定を行い、p値5%未満を有意な差と判定した。

<危険性（副作用）等>

本研究において危険性・副作用などはない。

<倫理上問題になると考えられる事項>

患者情報の取り扱いが考えられるが、以下の点に配慮して対処する。

取り扱いに関する注意点

- ① 個人が特定されないよう1から始まる番号で管理する。
- ② Excel およびWordに入力するが、パスワードを設定して管理する。パスワードは研究者が管理する。
- ③ 研究発表後速やかに破棄する。

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ
〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院

HCU・救急外来 大塚 操

TEL 0166-22-8111

FAX 0166-24-4648